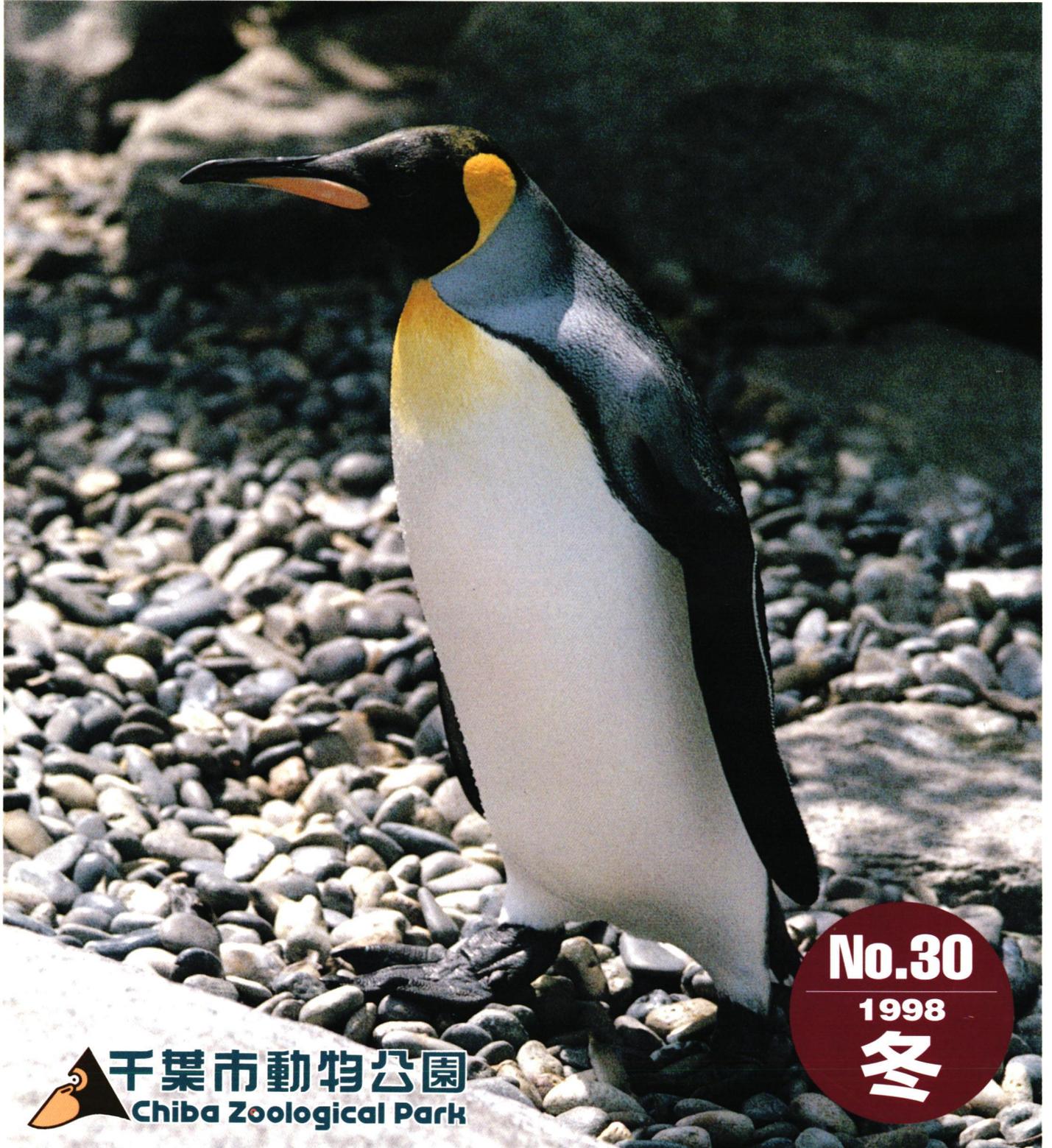


どうぶつこうえん ニュース



No.30

1998

冬



千葉市動物公園
Chiba Zoological Park

トピックス

マレーバク 奇蹄目 バク科

動物公園の草原ゾーンに、マレーバクという動物がいるのを皆さんは、知っていますか。タイ、マレー半島などの熱帯雨林に生息しているウマヤサイと同じ奇蹄目の動物です。活動は主に夜間で、子連れの母親以外は単独で暮らしています。白と黒のツートンカラー



で皮膚は厚く丈夫で全身に短い毛が生えています。前足に4本、後ろ足に3本の指があり、尾は短く長さが5~10cmで、体重は250~300kgです。鼻はゾウの鼻のように鼻と上唇が一緒に伸びたもので、

この鼻で食べ物である小枝や木の芽を口元に引き寄せたり、水中では鼻だけを出して呼吸することがあります。耳は大きな楕円形をしていて自由に動かすことができます。先端が白いのは、仲間同士の視覚的なコミュニケーションに役立っているといわれています。眼は小さくて奥に収まっているため、小枝やトゲで傷つくのを防いでいます。泳ぐのが上手で水底を歩くことができ、川岸や水の中で糞をすることが多いです。

当園のマレーバクの放飼場に、マレーバクが入るた

めの大きな池があります。この池で糞をしたり、暑さや虫除けのため水浴びをします。昼間、陸上で死んでいるのではないと思うぐらいよく寝ていることがあります。よくバクは悪い夢を食べてくれるといいますが、これは昔、中国でバクの皮は邪気を払うとされ、寝具に使われていたためこのような話になったそうです。野生では草や水草、木の葉、果実などを食べています。当園では青草、乾草、固形飼料、人参やキャベツなどの野菜、りんごやバナナなどの果実を与えています。

7月31日に子供が産まれましたが、子供は親と違って黒い体に白い斑点と縞模様があります。この模様はジャングルの中でカモフラージュになるといわれています。母親は足を伸ばして横になった状態で、かなり長い時間子供に授乳します。子供の模様は2ヶ月すると徐々に変わり始め、6ヶ月ぐらいには親と同じ色になります。

足立 仁之 (Masayuki Adachi)



目次

CONTENTS

表紙【オウサマペンギン】	①
トピックス【マレーバク】	②
特集【写真コンクール】	③
飼育レポート	
【ゲルディモンキーの人工哺育】	④
こどもどうぶつえんへようこそ	⑤
動物公園の植物【ヤブツバキ】	⑥
健康管理センターから【キャンディとフトシ】	
動物公園日誌から【'98.7/1~'98.9/30】	⑦
編集後記	
裏表紙【アメリカビーバー】	⑧

表紙の動物説明 オウサマペンギン

コウテイペンギン（皇帝ペンギン）について大きなペンギンで、体長80cm以上、体重は15kg近くにもなります。

南極大陸周辺の島々に生息し、巣はつくらず、1個だけ産む卵は足の上に乗せて、腹部のだぶだぶの皮膚でおおって温め、孵化させます。

ペンギンの仲間は、あらゆる鳥の中で最も水中生活に適応していて、遊泳能力や潜水能力は非常に高く、オウサマペンギンでは300m以上潜った記録があります。陸の上ではヨチヨチ歩きの愛嬌者も水の中ではまさに超能力者です。

秦 舜二 (Shunji Hata)

動物飼育数

平成10年10月末現在
Classified number of animals
as of 31. Oct. 1998

哺乳類	67種 414点	両生類	1種 1点
鳥類	84種 357点	魚類	2種 6点
爬虫類	5種 24点	総計	159種 802点

Special

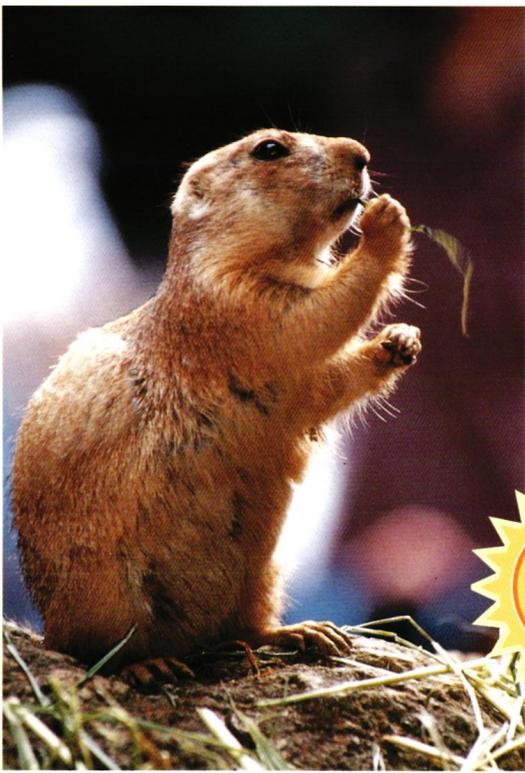
特集

平成10年度

写真コンクール

入賞作品

Congratulations!



金賞

夕日をあびて 大木 寿雄



銀賞

水浴 行川 三生



銅賞

ハシビロコウ 染谷 和弘

銀賞



覗かないで 鈴木 勉

銅賞

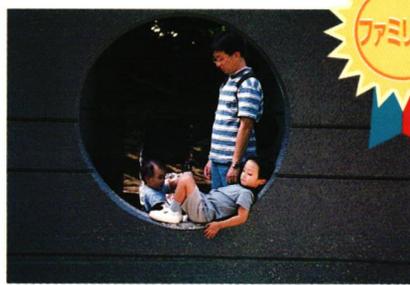


「なかよし」 清水 みちよ



銅賞

鴨と水牛 篠宮 俊之



ファミリー賞

疲れたよ! 西 幹雄



小・中学生
金賞

ヤギ 遠藤 祐介

ゲルディモンキーの人工哺育



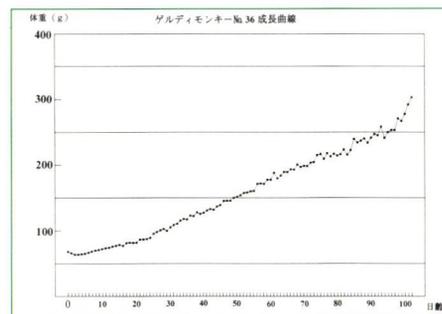
6月27日の朝、いつものようにゲルディモンキーの展示場の扉を開けたとき、足下に何やら黒いものが動いていました。ゲルディモンキーの

赤ちゃんです。このような場面に初めて遭遇したならば、きっと私はうろたえていたに違いありません。しかし、私はこれまで代番者として数回体験しており、何が起こり何が必要なのか瞬時に判断できました。マーモセットの仲間は通常出産すると、まずは母親が背負っているのが普通です。床に落ちていること自体が異常事態でした。両親や仲間が威嚇してきましたが、まずは子供の観察です。子供の毛は完全に乾いており、展示場の床に敷いてあるウッドチップにも血液らしきものが付着している様子はありませんでした。このことから、母親は出産後の子供を綺麗にするという仕事はきちんとやってくれたようです。子供には外傷はなく、手を差し伸べると私の指にしっかりとしがみついてきました。赤ちゃんが母親にしがみついて移動するような種の動物では、生まれた時にこのしがみつく力のない虚弱児は生き残ることが難しくなります。この赤ちゃんは十分に元気があり、それには該当しないようです。おそらく母親側に問題ありと思われましたが、子供の体力を考慮して、少しの間母親にチャンスを与えることにしました。その間に保育器を作動させ、受け入れ準備を整えておきました。この母親のこれまでの産歴を調べてみますと出産はするようですが、子供は1~2日のうちに死亡していることがわかりました。つまり産むことはできても育てることができないようです。1時間経っても子供にかまうような様子は見られませんでしたので、人工哺育へ踏み切りました。

動物の子供を人工哺育する時に最も注意しなければならないのが与える乳の選択です。これまでの人工哺育例、文献等を参考に、人間の新生児用の粉ミルクを使うことにしました。最初は粉ミ



ルクを約2/3の濃度に薄めて与えます。ゲルディモンキーの赤ちゃんには、本来の乳とは成分がかなり異なる乳に体を合わせてもらわないといけないからです。その後、下痢を誘発しないように気をつけながら1.5倍の濃度上げていきました。この濃度の乳は近縁種の乳の濃度に近い約21%の固形分濃度を持っています。当初は2.5時間おきに、その後、徐々に哺乳間隔を空けてゆき1回に飲ませる量を多くしていきました。今回、子供が満腹になるまで飲ませたことは一度もありません。目標量を設定して、いくら欲しがる様子でも制限してきました。欲しがる量と成長に必要な量は完全に一致することではなく、むしろ必要量以上の哺乳が下痢を誘発する原因になるという考えからでした。そのせいか、もの欲しさのために親指を吸う行動がよく見られ、たごができてしまうことがありました。しかし、離乳を開始した22日齢以降その行動は見られなくなりました。30日齢より日中は保育器の外で過ごせるようになり、35日齢からは活発に木登りしたり、鳴き声を発したりするようになりました。75日齢で哺乳を終了しました。現在(9/21)、体重234g。生まれた時



の約3.43倍に成長しました。過去、当園で行われた人工哺育例とは哺乳濃度は異なりますが、哺乳量はかなり少ないものとなりました。しかし、成長曲線はほぼ同じでした。より良い方法を見つけるためにも、条件を変えてトライしてみたことは良かったと思います。

一昔前に比べて人工乳の製品の質が向上しており、また多くの科学的な詳しい文献等が簡単に入手できるおかげで、人工哺育はそれほど難しいものではなくなってきています。しかし、物質的なものを十分に満たしてやり、外見上は全く遜色ないように育てることはできても、大人になった時にうまく交尾や育児ができなかったりと、心を正常に成長させることは今でも困難です。特に、親や仲間から多くのことを学びながら成長する種類ではそうです。今回も、この子供が将来自分で子供を産み育ててくれた時に初めて合格点がもらえると思っています。それにはまだ時間が必要です。

松本 和人 (Kazuhiro Matsumoto)

こどもどうぶつえんへようこそ

Welcome to Children's Zoo

～子ども動物園で人気の教材紹介 ③～

比べてみよう

1 動物の赤ちゃん比べ

この教材の特徴は、常に飼育センター1階の展示コーナーに展示しながら、ときどきそのレプリカ標本を取り出して、団体指導のときなどにも子供たちに見せてあげることができる点です。比べているのは、カイウサギ、テンジクネズミ（モルモット）、ハムスター、ハツカネズミの4種類です。おとなの大きさと比べてみると、カイウサギが最も大きいのですが、赤ちゃんの大きさではテンジクネズミがトップです。赤ちゃんの標本は、実物大に紙粘土で作り、それに彩色していますので、手にとってよく見比べることもできます。たとえば、ハムスターとハツカネズミはたいへんよく似ていて、生まれたときはどちらも無毛であることや、カイウサギも無毛の状態で生まれてくること、またテンジクネズミは毛も生えそろう、十分に成長した状態で生まれることがよくわかります。妊娠期間や生まれたときの平均体重なども掲示されていて、いろいろなことを比べてみることができます。そして、この標本のとなりには、「ヒトの胎児の発育」といって、お母さんのおなかにいる人間の赤ちゃんのレプリカもおいてあります。人間も最初は卵であることや、また100日目、200日目の赤ちゃんの大きさが実物大で示されていて、「人間も動物なんだ」ということがわかります。これらのことが「くらべてみよう」の標本展示で知ってほしいことです。



2 小動物コーナーの動物比べ

飼育センターのカウンターに常設しており、自由に見るこ

とができる絵本タイプの教材です。小学校3年生から6年生くらいの子供を対象に作られていて、ハムスター、ハツカネズミ、カイウサギ、テンジクネズミの野生での暮らしや食べ物の捕り方、成長の仕方などを比べ、これによって、ただ「かわいいなあ」と動物を見るだけでなく、動物にはそれぞれ生きてきた長い歴史があり、それぞれの暮らし方があること（カイウサギは穴を掘りトンネルづくりが得意で、そこを隠れ場にする。テンジクネズミは自分では穴を掘らず、草むらや自然の穴を利用していることなど）を知ってほしいと考えています。



小動物コーナーの日記から

- まだ幼稚園に通っているくらいの子が「ネコはー？」と、ネコにさわりたい様子でした。初めてそんなこと聞かれてびっくりしました。（9月5日）
- 「これ、何回さわっていいんですか。」と小学校1、2年生の男の子に聞かれたので、「いっぱいさわっていいんだよ。」と答えました。（9月12日）
- ハツカネズミを抱いた子供が「ウンチした」と言うと、お父さんは「すごいじゃない」と喜んでいました。

（9月23日）

並木 美砂子 (Misako Namiki)



動物公園の植物…⑭

The plants in the Zoological Park

ヤブツバキ

ヤブツバキは、ツバキ科ツバキ属の常緑高木です。大きいものは樹高10~15mになります。海沿いの地方に多く自生しますが、山地にも生えます。

ツバキ科は、世界に約30属、500種あり、主に北半球の熱帯、亜熱帯に分布しますが、暖帯や温帯にもみられます。



日本に野生するツバキ科の樹木は、果実が裂開するツバキ属、ナツツバキ属、ヒメツバキ属と、果実が裂開しないモッコク属、サカキ属、ヒサカキ属を中心に7属、約20種があります。

樹皮は、灰色で灰白色の不規則な模様があり滑らかです。

葉は互生し、長さ5~12cmの長卵

形で厚くかたく、表面は濃緑色で光沢があり、縁には細かい鋸歯があります。裏面は淡緑色です。

花は赤色で、2~4月、枝先に1個づつ咲き、花弁は長さ3~5cmで5個あります。花が白色の品種をシロヤブツバキといい、四国と九州に、まれに生えるそうです。

雄しべは多数あり、花糸の下半分は合着して筒状になり、基部は花弁と合着しています。葯は黄色、子房は無毛で花柱は3裂します。萼片は5個。

果実は直径4~5cmの球形で、果皮が厚く熟すと3裂して暗褐色の種子を2~3個出します。変種のリンゴツバキは、果実が直径5~6cmと大形です。

種子は、ツバキ油として、頭髮用、灯用、食用、薬用などに使われます。

当園の植栽は、園内および、近接地に自生していた良好な樹木を活かしながら行っており、なかでも動物科学館前に移植されたヤブツバキは、樹高約10m、幹廻り約140cmと大きく、見応えがあります。

齋藤 哲朗 (Tetsuro Saito)



健康管理センターから

From Animal Health Center

「キャンディとフトシ」

オランウータンの雌のキャンディは、1988年7歳（ヒトで16歳ぐらい）で東京の多摩動物公園から甥のジャックと共に、当時健在であった雄のラーマンのもとへ嫁入りして来ました。8月初めの暑い日にもかかわらず、角隠しならぬ麻袋を頭からかぶってケージの中でいじけていました。その後、当園の飼育環境にも徐々に慣れ夫のラーマンとも仲良くなり、1990年4月には雌のナナを無事出産しました。ナナの面倒は良くみて母仔共に健康でしたが、1992年11月に夫のラーマンに不幸にも肺炎で先立たれてしまいました。娘のナナとの生活が数年間続いていましたが、そんな所へ京都市動物園より再婚の話が舞い込みました。両園での話し合いが持たれ、日取りは今年8月24日と決定しました。輸送用のケージへ自分からは入ってくれないので、前日に麻酔をかけてケージへ入れました。当日、10年間慣れ親しんだ当園を名残惜しがる様な態度をみせて関係者をやきもきさせましたが、無事京都での第2の「人生」へ旅立ちました。

オランウータンの雄のフトシは、キャンディが旅立ってから1週間後の8月31日に、鹿児島島の長崎鼻パーキング・ガーデンから1頭残ったナナのもとへ婿入りしてきました。年齢は10歳（ヒトで20歳ぐらい）。当日は、私が羽田空港まで迎えに行きました。フトシは貨物用のコンベヤーの上をケージに入って現れました。騒がしい場所ですが、結構落ち着いていました。翌日、麻酔をかけて各種の検査を行い動物病院から類人猿舎へ移動しました。あまり麻酔に慣れていない個体で次の日の朝まで覚醒が遅れましたが、健康状態は良好です。今後、フトシとナナがどんな「メイク・ドラマ」をみせてくれるのでしょうか。

中村 誠 (Makoto Nakamura)



当園で10年間慣れ親しんだ「キャンディ」



動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

'98年7月1日~'98年9月30日

- 7月 4日 パタスザル (雄1), 検疫明けでサル比較舎へ
- 7月 6日 ニシローランドゴリラ, (雄ゴロ) と (雌モモコ) 本日より定期的に見合実施, 特にトラブルはなし
- 7月11日 ウマ (5頭) とロバに破傷風ワクチン接種
- 7月16日 ワタボウシパンシェ (4頭) 他, 動物交換で搬出
- 7月17日 関東東北ブロック動物園技術者研究会幹事会に, 横山職員出席 (東京都恩賜上野動物園にて)
- 7月20日 日本大学学生 (松代), 本日より学芸員実習開始 (8月2日まで)
- 7月22日 第14回サマースクール開催 (24日まで)
- 7月31日 マレーバク (雄1), 繁殖
- 8月 1日 グレービーシマウマ (雄1), 繁殖



日本大学学生 (半澤), 本日より獣医実習開始 (14日まで)

東京農業大学学生 (芳賀), 本日より学芸員実習開始 (11日まで)

- 8月 3日 ワタボウシパンシェ (2頭), ピグミーマーモセット (2頭), コサンケイ (1羽), 繁殖用貸与及び, ツクシガモ (2羽) とシマクサマウス (10頭) の動物交換で, 埼玉こども動物自然公園職員来園
- 8月 4日 中学生職場訪問あり (千葉市立高浜中学校, 8名)
- 8月 5日 中学生職場訪問あり (千葉市立小中台中学校, 4名)
- 8月 6日 シロガオマーモセット (雄1, 雌1), 動物交換で搬出
- 8月 8日 マンドリル (雄1), 検疫明けでサル比較舎へ
- 8月14日 マレーバク, グレービーシマウマの繁殖について記者発表する
- 8月18日 オウサマペンギン (雄1), 死亡
- 8月19日 富津市教育研究会理科サークル研修会 (参加者12名), (対応, 子ども動物園職員)
- 8月20日 日本大学学生 (加藤), 本日より学芸員実習開始 (9月4日まで)

- 8月21日 ボルネオオランウータンの繁殖計画に基づく移動について記者発表する
- 8月24日 ボルネオオランウータン (雌キャンディ), 繁殖用貸出で, 京都市動物園に搬出
- 8月27日 千葉県幼稚園協会研修会 (参加者60名), (対応, 子ども動物園職員)
- 8月31日 ボルネオオランウータン (雄フトシ), 繁殖用借入で, 長崎鼻パーキングガーデンより新着
- 9月 1日 マレーバクの仔, 本日より一般公開
都留文化大学学生 (西澤), 本日より学芸員実習開始 (7日まで)
- 9月 3日 アカコンゴウインコ (雄1), 動物交換で新着
- 9月 5日 ヘビクイワシ (ヒナ), 巣立する (自力採食確認)
- 9月 7日 アルマジロについて, NHKテレビ取材あり
アフリカヘラサギ (雄1), グリーンイグアナ (8頭), 動物交換で新着
- 9月 9日 トナカイ (雄ギン), 脳内出血で死亡
- 9月11日 ボンテポック (雄ボンボン), 多臓器不全で死亡
- 9月20日 「動物愛護週間特別講演会」開催



ーみぢかなへびやカエルたちー

(講師 千葉県立中央博物館 長谷川 雅美氏)

- 9月24日 中学生職場訪問あり (千葉市立花見川第一中学校, 3名)

- 9月27日 「ワンポイントウォッチング」開催 (トナカイ)
(講師 飼育課 中村 彰宏)

小林 正典 (Masanori Kobayashi)

編集後記

.....

木の葉吹く風もうすら寒く落葉の散り敷く今日この頃, 皆様いかがお過ごしでしょうか。平成11年度の事業計画もほぼ決まり一段落。どうぶつこうえんニュースも来年度は今以上に内容, 写真等の充実を図りますのでご期待ください。次回発行予定は, 平成11年3月1日です。

(白井 剛)



アメリカビーバー

お知らせ

- ★千葉市動物公園は、来年正月2日から開園致します。
【4日(月)は休園】
- ★動物公園ドリームワールド内観覧車は、来年3月25日(予定)まで
お色直しのためお休みしております。 【他の遊具は、平常運転】